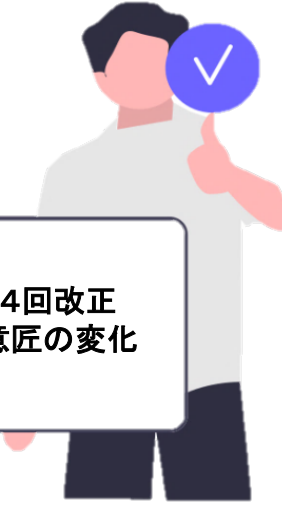


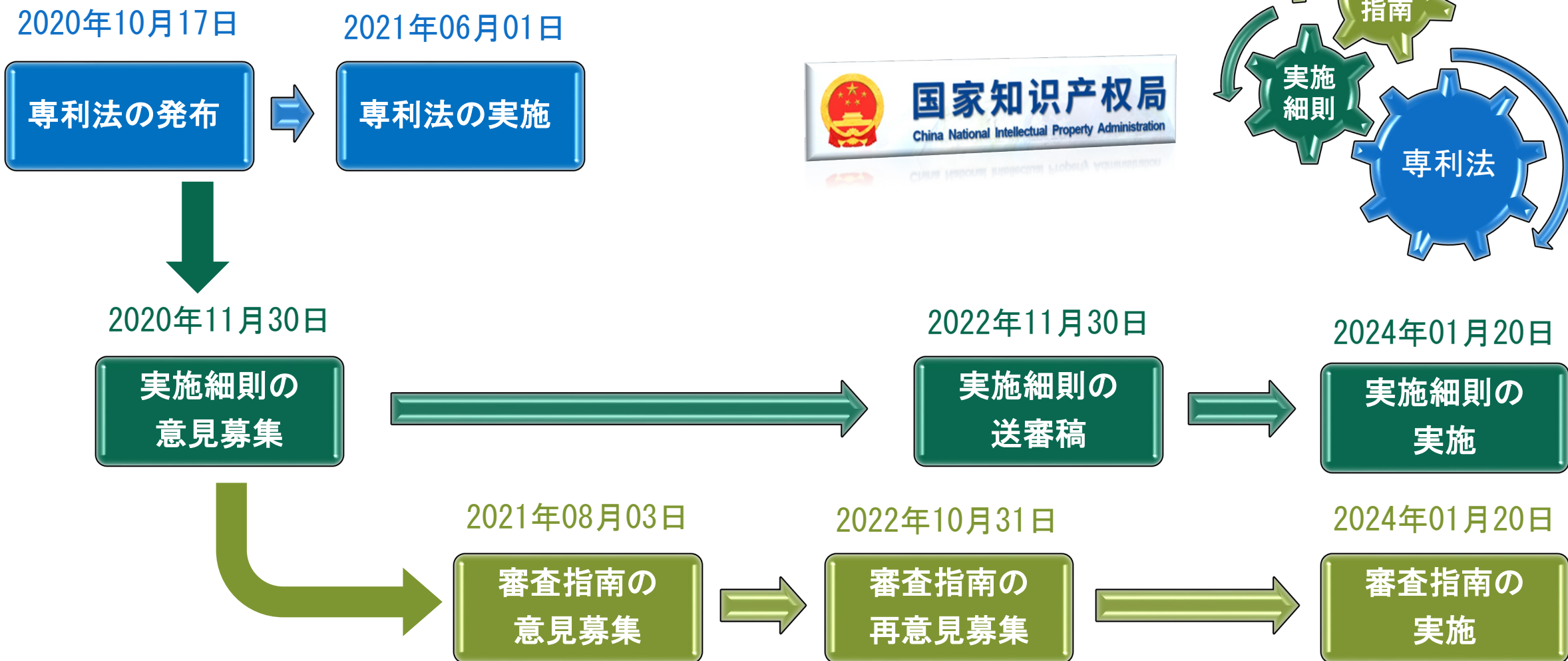
専利法第4回改正を通じた 中国部分意匠の変化

北京銀龍知識産権代理有限公司
機械意匠部長 兼 日本部長 金成哲



専利法第4回改正
中国部分意匠の変化

○. 前書き(法改正の全体状況)



目次



I . 登録不可能な部分意匠（法律上の規定）

専利法（2021.06.01より実施、以降は同様） 第二条 第4項

意匠とは、製品の全体または局部の形状、図案またはその組合せ及び色彩と形状、図案の組合せについて出された美感に富み、かつ工業上の応用に適した新しいデザインを指す。

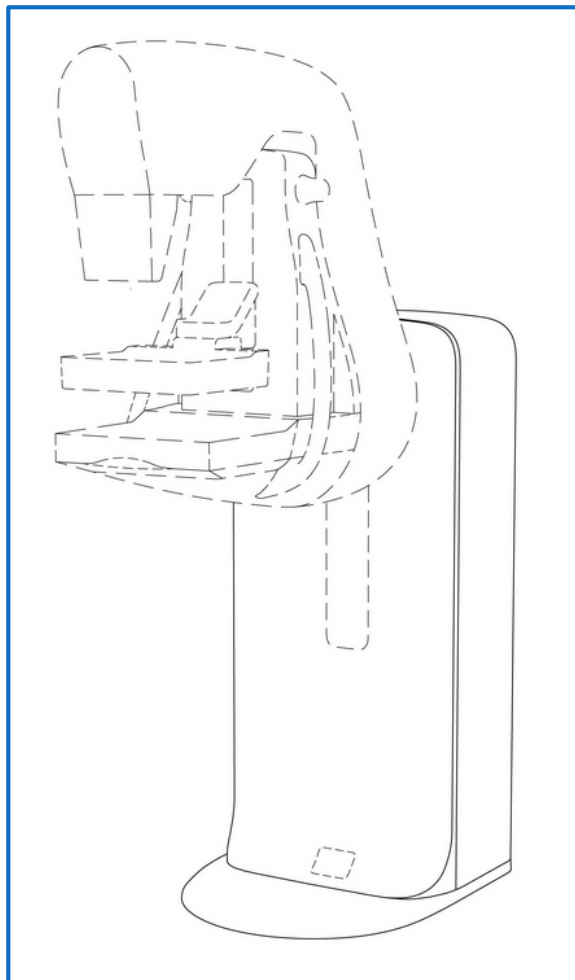
実施細則（2024.01.20より実施、以降は同様） 第三十条 第2項

部分意匠を出願する場合、製品全体の図面を提出し、保護しようとする部分の内容を破線と実線の組合せ又はその他の方式を用いて示さなければならない。

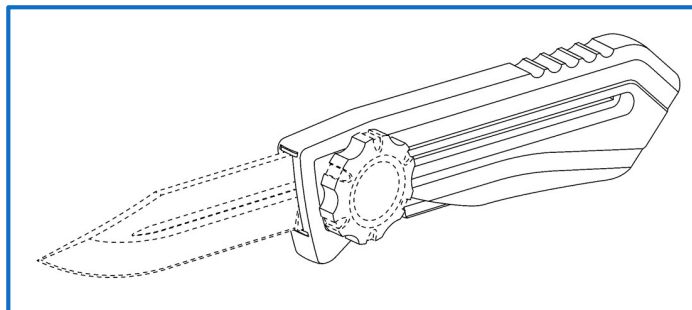
審査指南（2024.01.20より実施、以降は同様） 第一部分 第三章 4. 4

部分意匠とは、製品の局部の形状、図案又はその組合せ及び色彩と形状、図案の組合せについて出され、美感に富み、かつ工業上の応用に適した新しいデザインを指す。

I. 登録不可能な部分意匠 (登録可能な案例)



X線装置の支持部



ナイフの本体部



自転車のフレーム



椅子の本体部

I . 登録不可能な部分意匠（法律上の規定）

審査指南 第一部分 第三章 7. 4

7. 4 意匠専利権を授与できない状況

* (1)乃至(9)は省略*

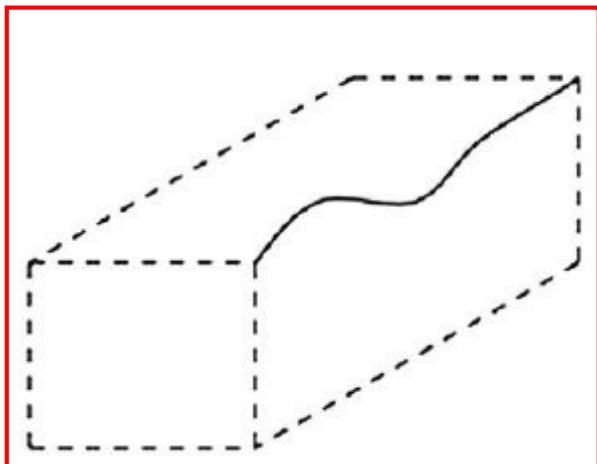
(10) 製品に相対的に独立した区域を形成できず、または、相対的に完整したデザインユニットを構成できない部分意匠。例えば、コップ取手の転換線、任意に取ったメガネガラスの不規則の部分。

(11) 保護しようとする部分意匠が単なる図案、または図案と色彩との組合せのデザイン。例えば、バイク表面の図案。

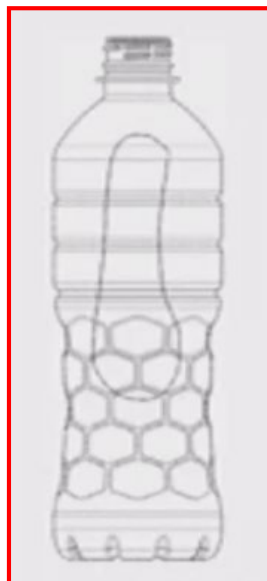
審査指南 第一部分 第三章 9. 2

組物製品における各意匠は製品の全体意匠でなければならず、製品の部分意匠ではない。

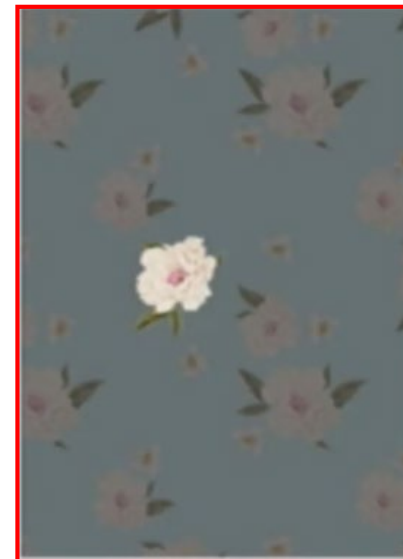
I. 登録不可能な部分意匠 (登録不可能な案例)



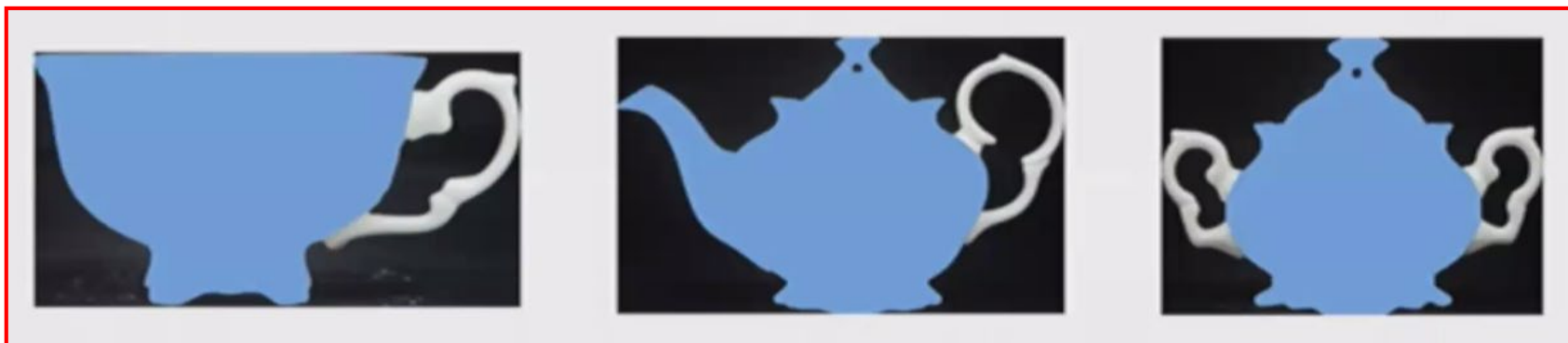
不規則的な例



デザインユニットの例

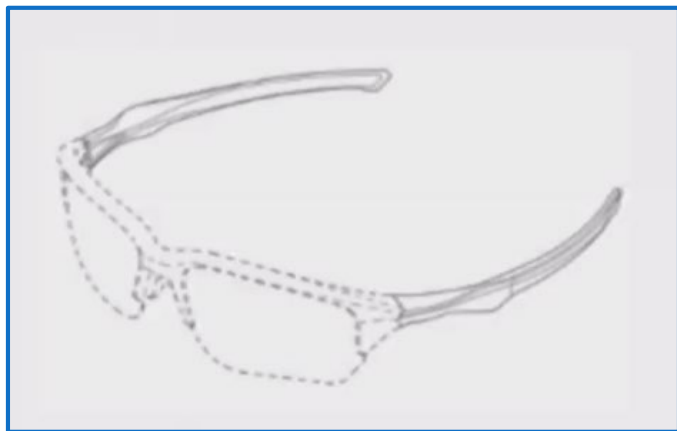


平面図案の例



組物製品の例

I. 登録不可能な部分意匠(登録可能な特別事例)



機能的に関連する部分意匠



設計上に関連する部分意匠

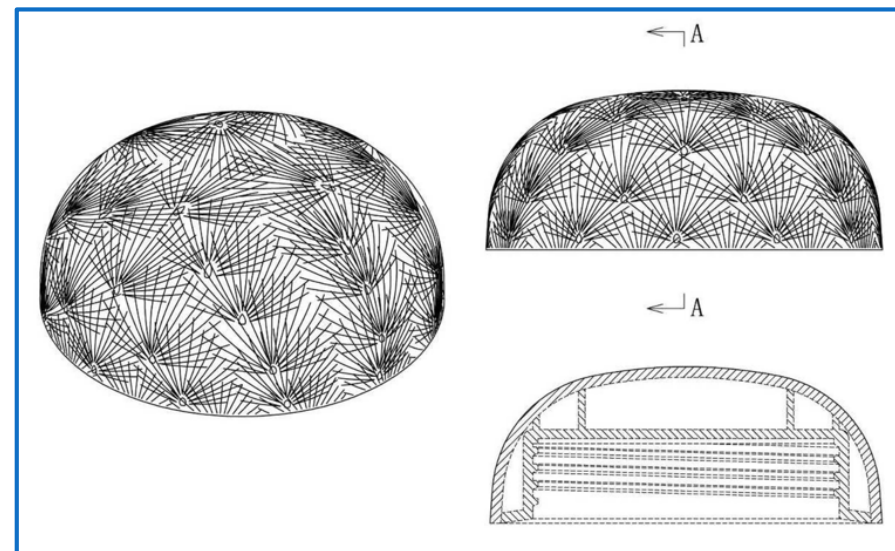
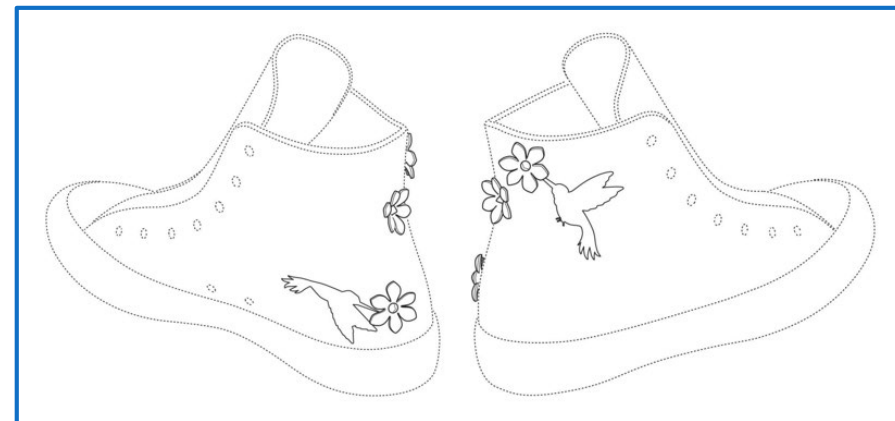


機能的且つ設計上に関連する部分意匠

審査指南 第一部分 第三章の9

同一製品の二つまたは二つ以上の接続関係のない部分意匠は、機能的に、または設計上に関連し特別視覚効果を有する場合、一つの意匠として出願可能である。

I. 登録不可能な部分意匠 (登録可能な案例)



目次



Ⅱ. 部分意匠の図面要求(法律上の規定)

専利法 第二十七条 第2項

出願人が提出する関連の図面又は写真には、専利の保護を要求する製品の意匠を明確に示さなければならない。

審査指南 第一部分 第三章 4.4.2

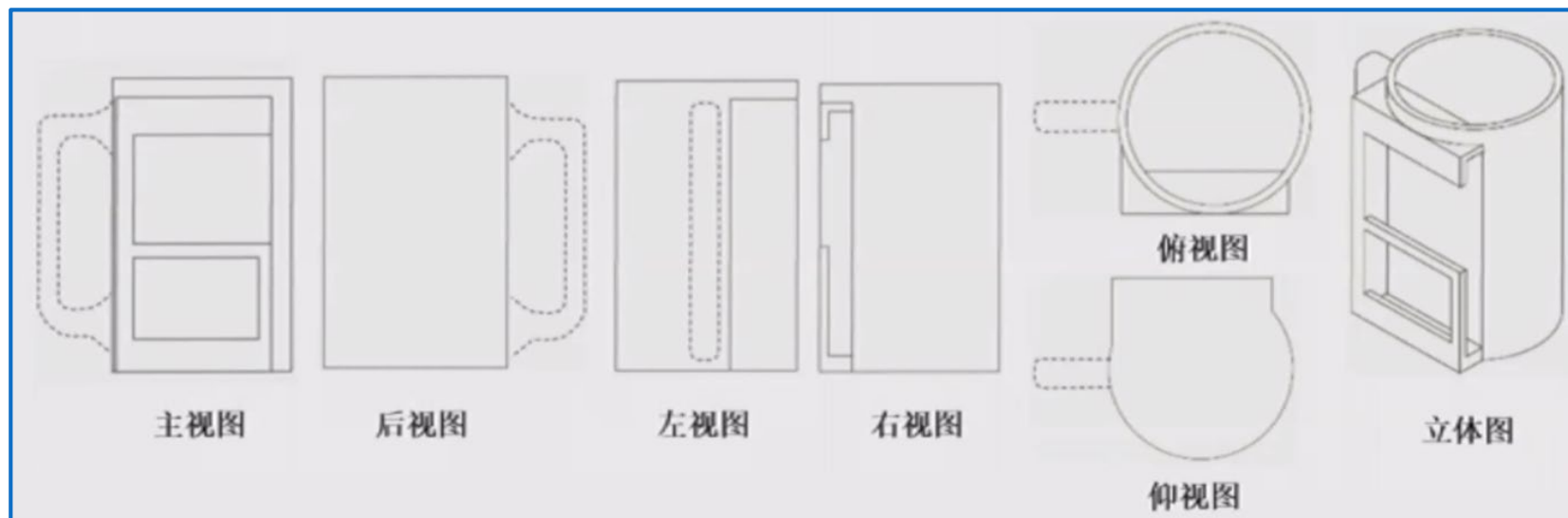
全体製品の図面は、保護しようとする製品の部分意匠、該当部分が全体製品における位置、比例関係を明らかに表示しなければならない。保護しようとする部分が立体形状を含む場合、図面には当該部分明らかに表示できる斜視図を含むべきである。

一部省略

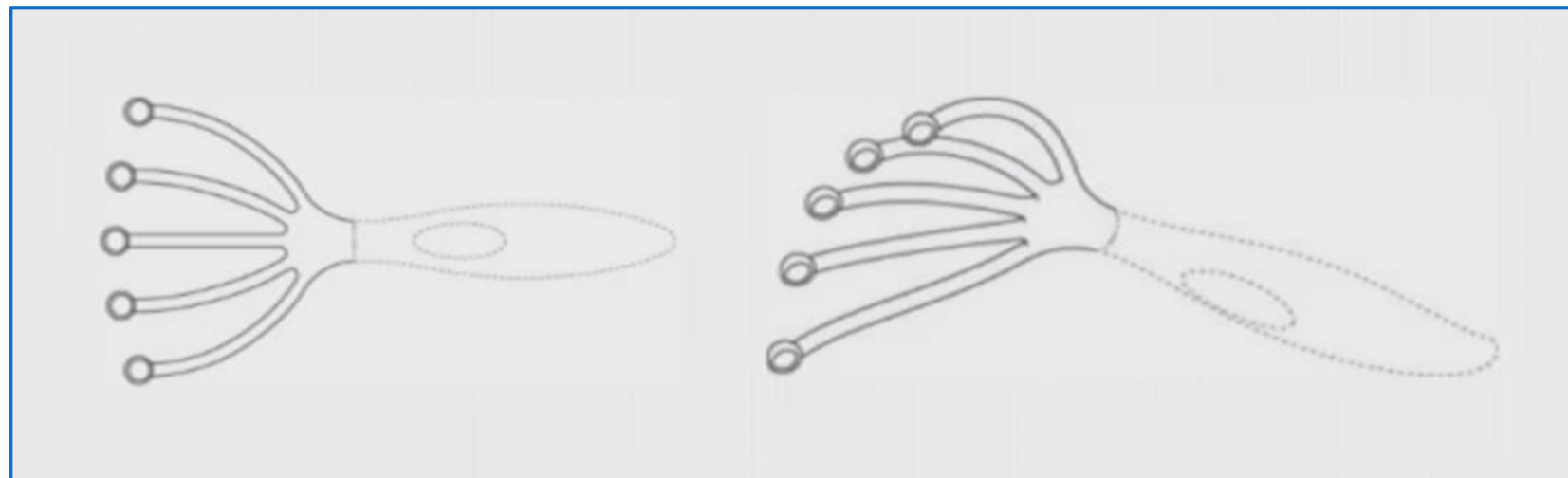
保護しようとする部分と他の部分との境界線が明らかではない場合、一点鎖線にて境界線を表示すべきである。

II. 部分意匠の図面要求（登録可能な例）

斜視図の例



一点鎖線の例



II. 部分意匠の図面要求(登録可能な例)



目次



Ⅲ. 部分意匠の簡要説明（法律上の規定）

審査指南 第一部分 第三章 4. 4. 1

部分意匠の名称は、保護しようとする部分とその部分が存在する全体製品を明らかに記載しなければならない。例えば、自動車のドア、携帯電話のカメラ。

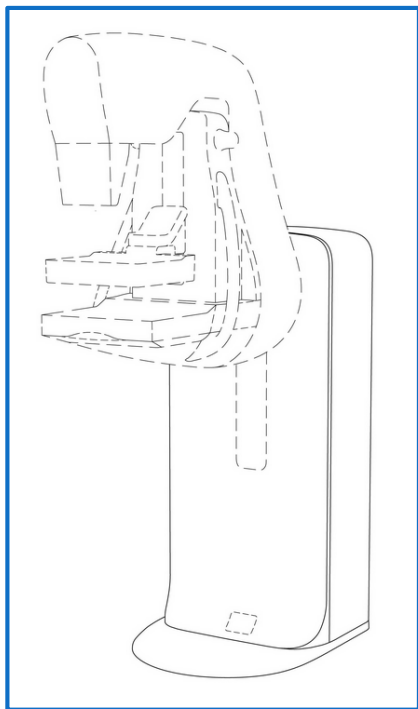
審査指南 第一部分 第三章 4. 4. 3

- (1) 破線と実線の組合せ以外の他の方式を用いて保護しようとする部分を表示した部分意匠は、簡要説明にて保護しようとする部分を明記すべきである。
- (2) 一点鎖線にて保護しようとする部分とその他の部分との境界線を表示した部分意匠は、必要に応じて、簡要説明に明記すべきである。
- (3) 必要に応じて、保護しようとする部分の用途を明記すべきであり、製品名称に示された用途と対応すべきである。
- (4) 設計要点を最も表明した指定図面または指定写真には、保護しようとする部分意匠が含まれるべきである。

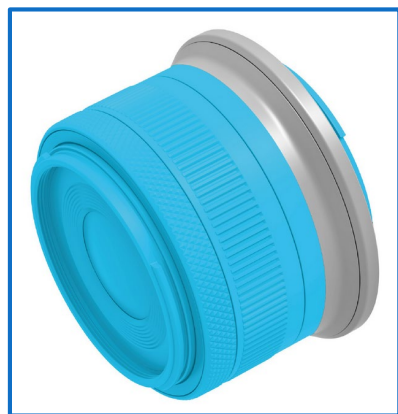
Ⅲ. 部分意匠の簡要説明（登録可能な案例）

審査指南 第一部分 第三章 4.4.1

部分意匠の名称は、保護しようとする部分とその部分が存在する全体製品の名称を明らかに記載しなければならない。例えば、自動車のドア、携帯電話のカメラ。



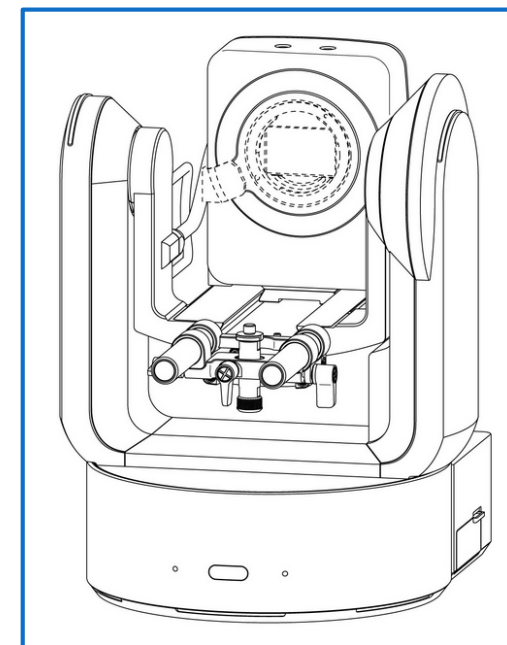
X線装置の支持部



レンズのスカート部



自動車の後部



カメラの本体部

Ⅲ. 部分意匠の簡要説明（登録可能な案例）

審査指南 第一部分 第三章 4.4.3

登録可能な書き方

(1) 破線と実線の組合せ以外の他の方式を用いて保護しようとする部分を表示した部分意匠は、簡要説明にて保護しようとする部分を明記すべきである。

(1) 本意匠出願は自動車のドアを保護し、透明な赤色に覆った部分は保護しない部分を示す。

(2) 一点鎖線にて保護しようとする部分とその他の部分との境界線を表示した部分意匠は、必要に応じて、簡要説明に明記すべきである。

(2) 一点鎖線は、保護しようとする部分とその他の部分との境界線である。

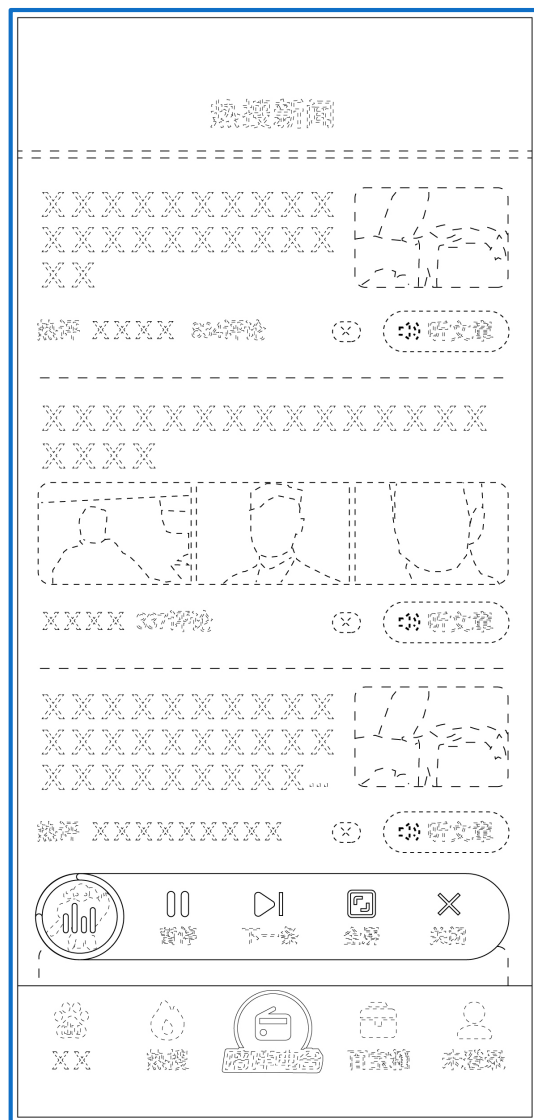
(3) 必要に応じて、保護しようとする部分の用途を明記すべきであり、製品名称に示された用途と対応すべきである。

(3) 部分意匠の属する製品は物収容に用いられ、部分意匠はバッグの取上げに用いられる。

(4) 設計要点を最も表明した指定図面または指定写真には、保護しようとする部分意匠が含まれるべきである。

(4) 自動車の後部が見える図面を選択する。

Ⅲ. 部分意匠の簡要説明 (GUIの登録可能な案例)



意匠製品の名称:

電子機器のオーディオ再生グラフィカルユーザインタフェースのオーディオ再生領域

意匠製品の用途:

一種の電子機器

本意匠製品の設計要点:

電子機器におけるグラフィカルユーザインタフェースの保護を求める部分にある

グラフィカルユーザインタフェースの用途:

グラフィカルユーザインタフェースはオーディオ再生用であり、グラフィカルユーザインタフェースの保護を要求する部分はオーディオ再生用である。グラフィカルユーザインタフェースは、ユーザのクリック操作によって相互作用できる。

その他の説明:

図面中の破線はグラフィカルユーザインタフェースの部分を示し、本意匠が保護する部分を構成しない。

目次



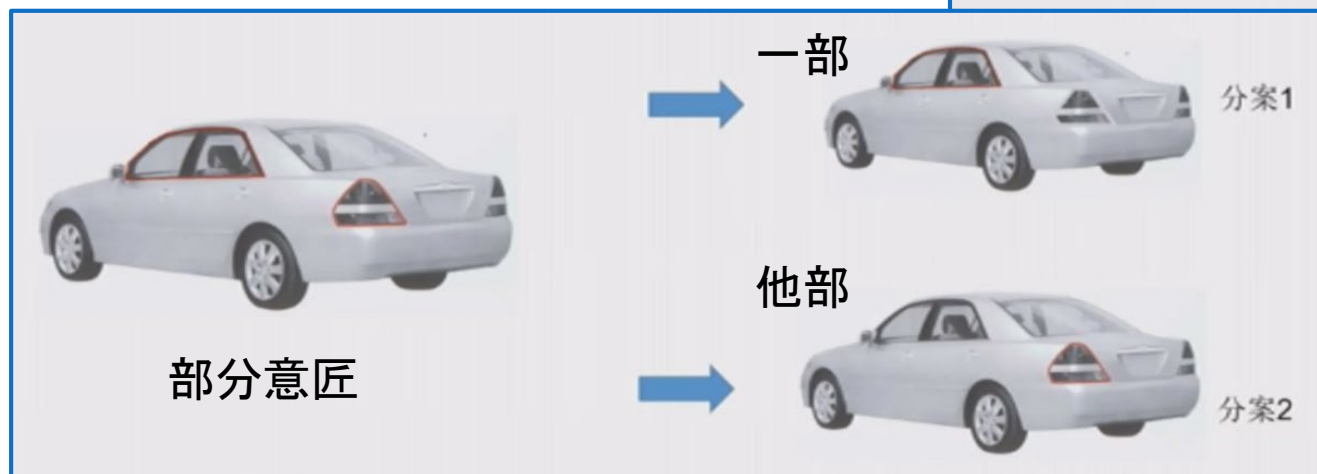
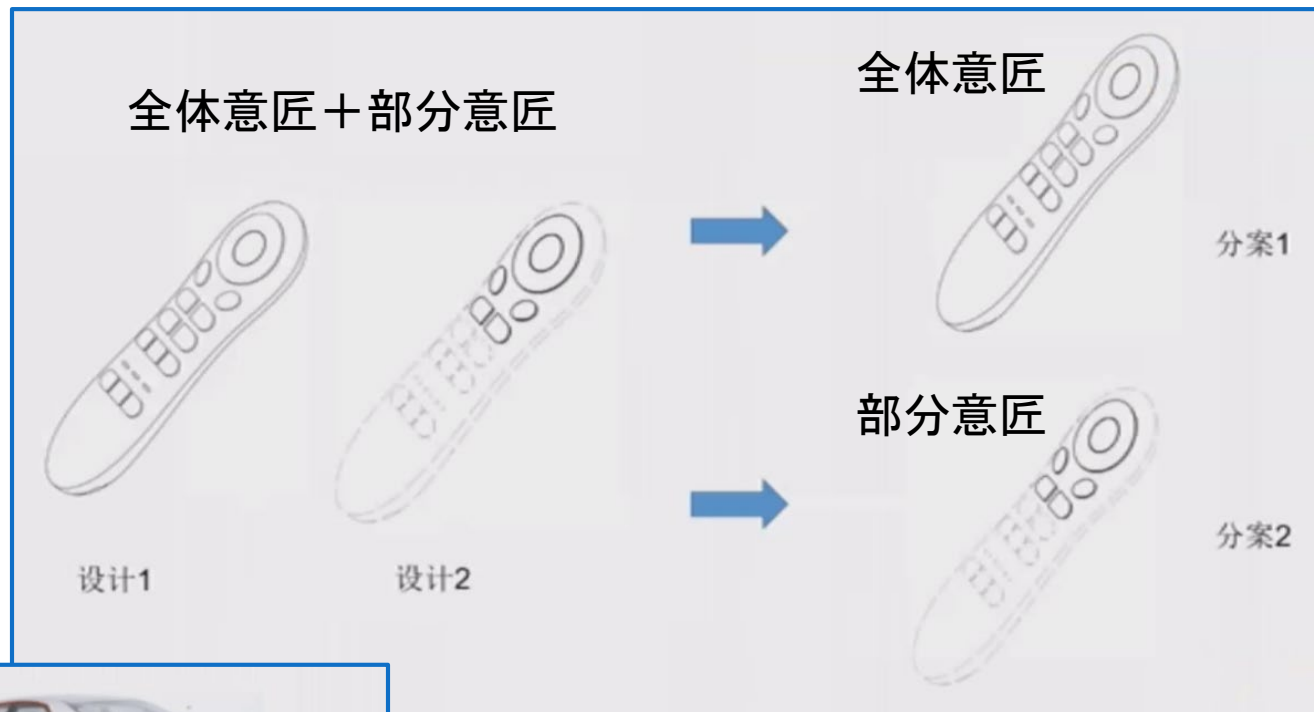
IV. 部分意匠の分割出願（法律上の規定）

審査指南 第一部分 第三章 9.4.2

- （1） 親出願に二つ以上の意匠が含まれる場合、分割出願は親出願中の一つまたは複数の意匠であるべき、親出願に表示された範囲を超えてはいけない。
- （2） 親出願が製品の全体意匠である場合、その一部を分割してはいけない。
- （3） 親出願が製品の部分意匠である場合、その全体、または他の部分を分割してはいけない。

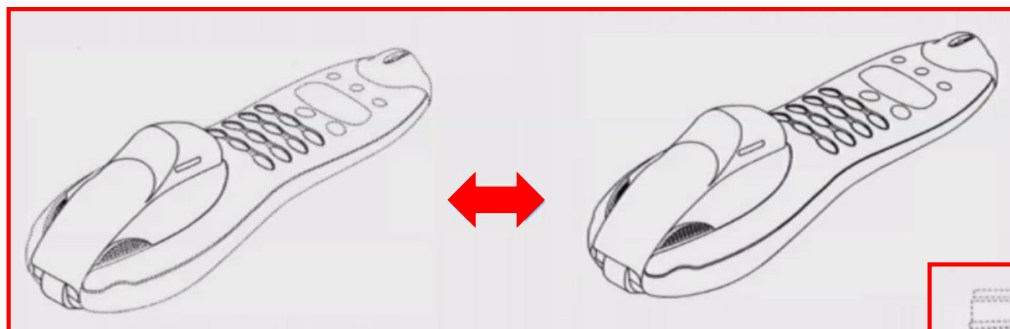
IV. 部分意匠の分割出願(分割可能な案例)

全体と部分が類似意匠?

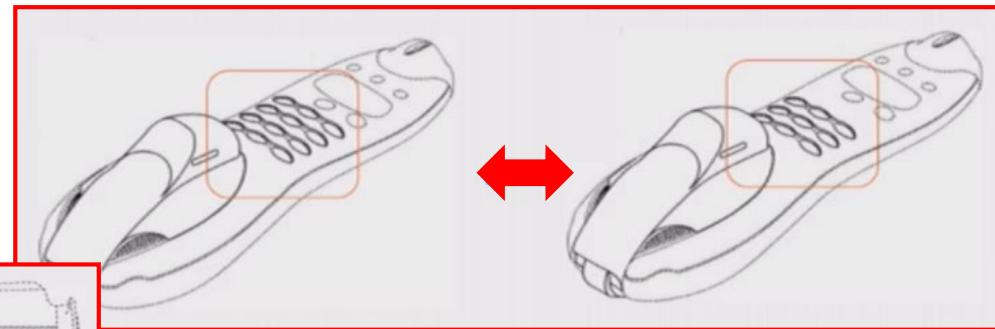


親出願のそのままは?

IV. 部分意匠の分割出願 (分割不可能な案例)

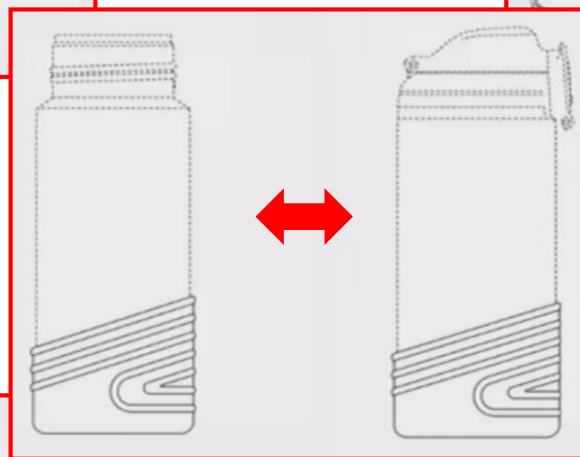


破線変更

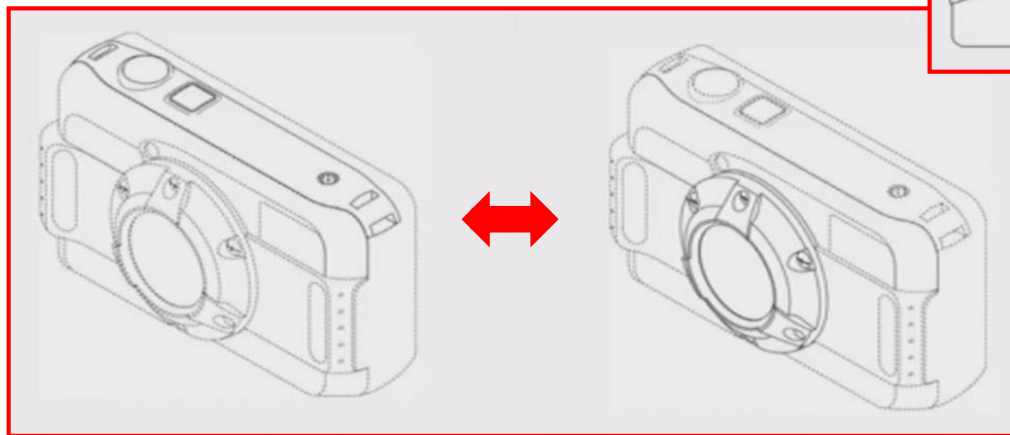


配列変更

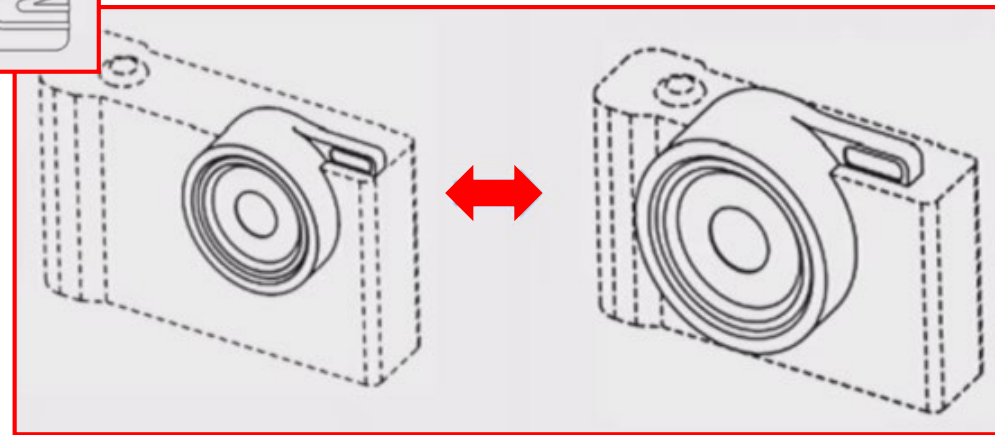
部分⇔全体、一部⇔他部



破線変更



比率変更



目次



V. 部分意匠の自発補正（法律上の規定）

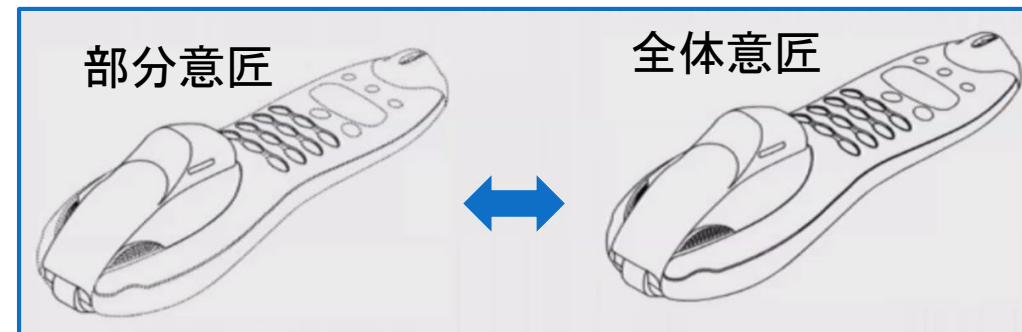
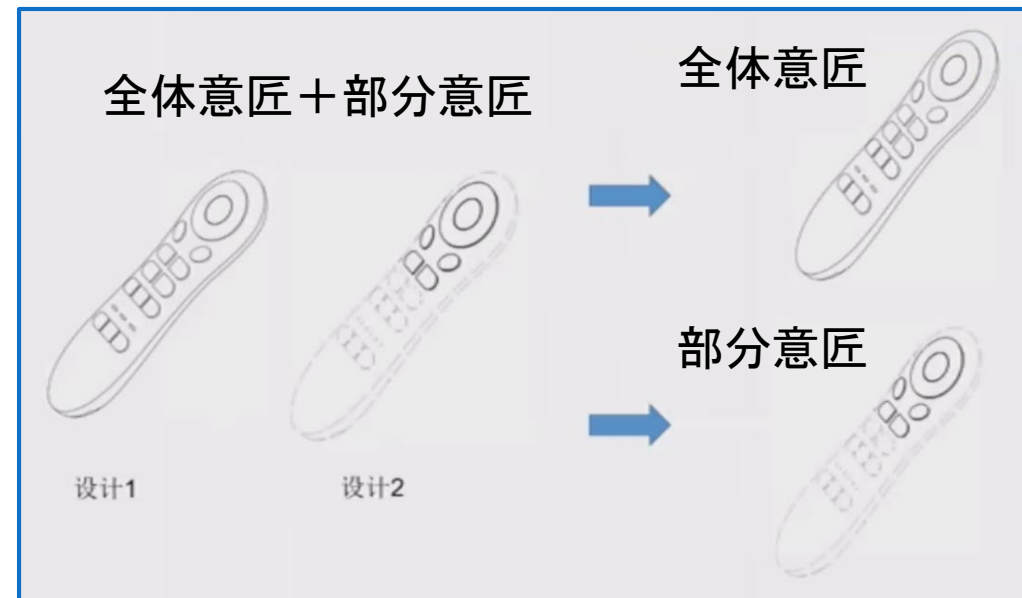
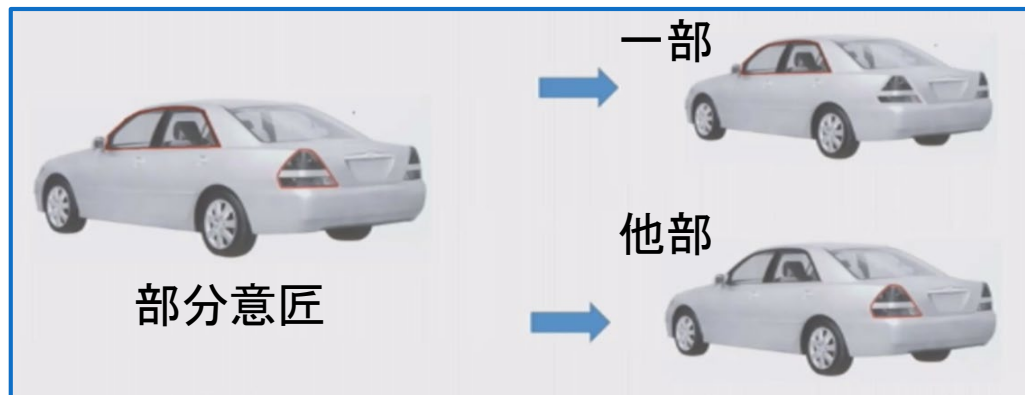
審査指南 第一部分 第三章 10.1

出願人が提出した自発補正について、審査官は出願日から二ヶ月以内に提出しているか否かを照合すべきある。但し、二ヶ月を超えている場合には、以下の補正は認められない。

- (1) 全体意匠を部分意匠へ補正する。
- (2) 部分意匠を全体意匠へ補正する。
- (3) 同一製品の一部の部分意匠を他部の部分意匠へ補正する。

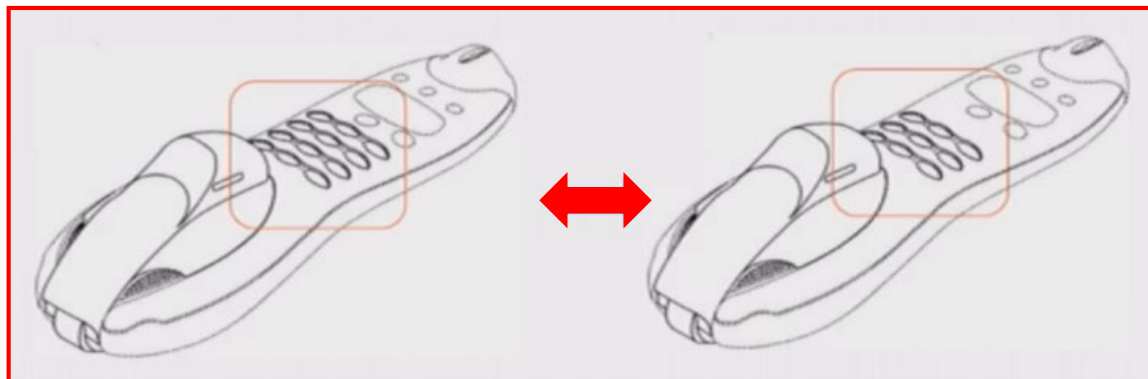
* すなわち、自発補正時期には、全体⇔部分や、一部⇔他部などの補正が認められる。

V. 部分意匠の自発補正(自発補正可能な案例)

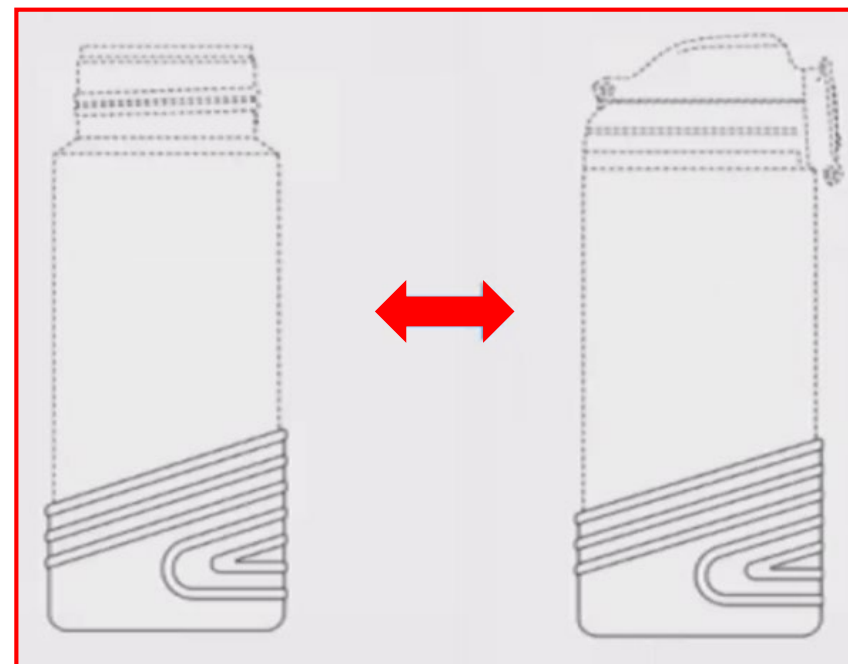


V. 部分意匠の自発補正（自発補正不可能な案例）

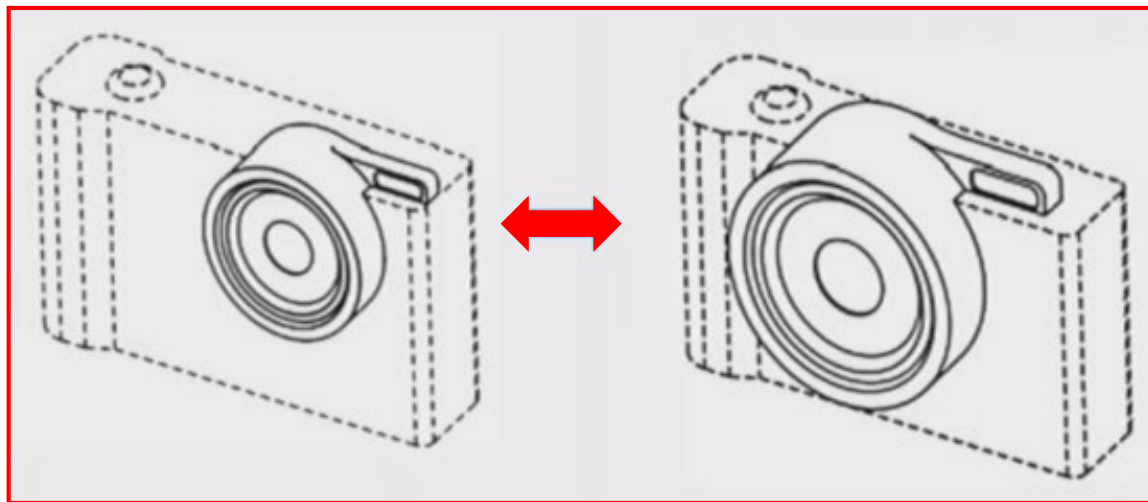
配列変更



破線変更



比率変更



* 新規事項の判断標準も同様

目次



VI. 部分意匠の優先権（法律上の規定）

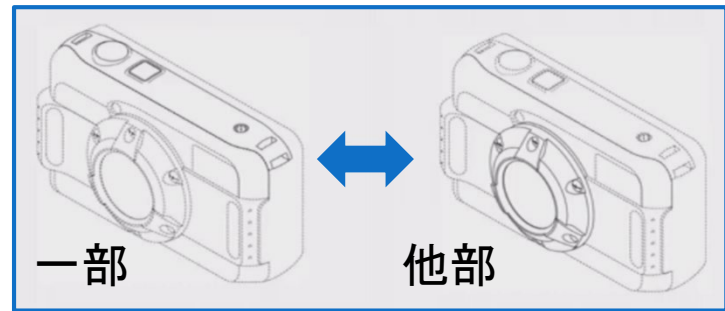
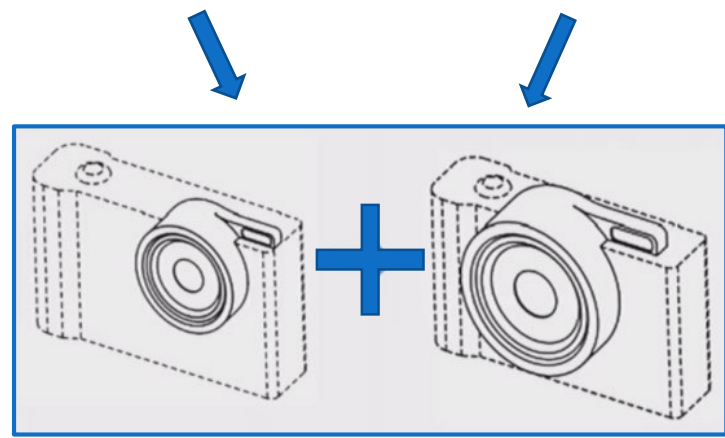
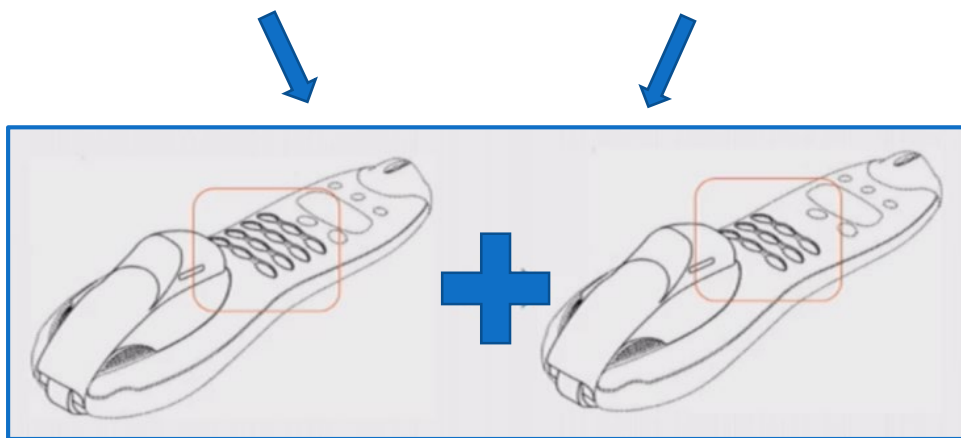
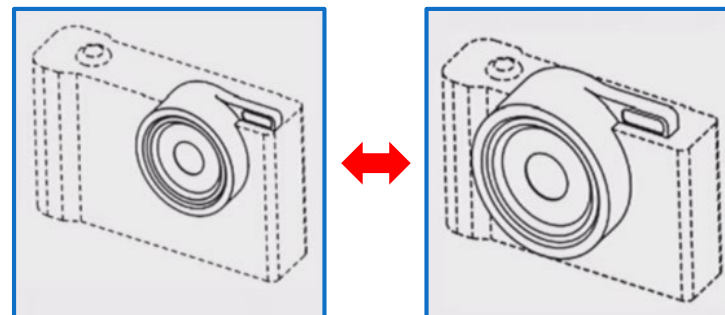
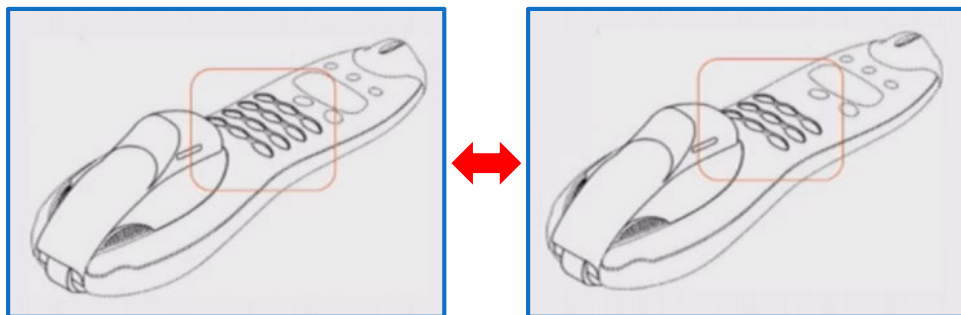
専利法 第二十九条 第2項

出願人が、発明または実用新案を中国で最初に専利出願した日から12ヶ月以内に、または意匠を中国で最初に専利出願をした日から6ヶ月以内に、国務院専利行政部門に同一の主題について専利出願をする場合、優先権を享有することができる。

実施細則 第三十五条 第2項

（前略） 意匠の専利出願人が国内優先権を主張し、先の出願が発明又は実用新案の専利出願である場合、図面が示す設計に対して同一主題の意匠の専利出願を提出することができ、先の出願が意匠の専利出願である場合、同一主題の意匠の専利出願を提出することができる。

VI. 部分意匠の優先権 (主張可能or不可能な案例)



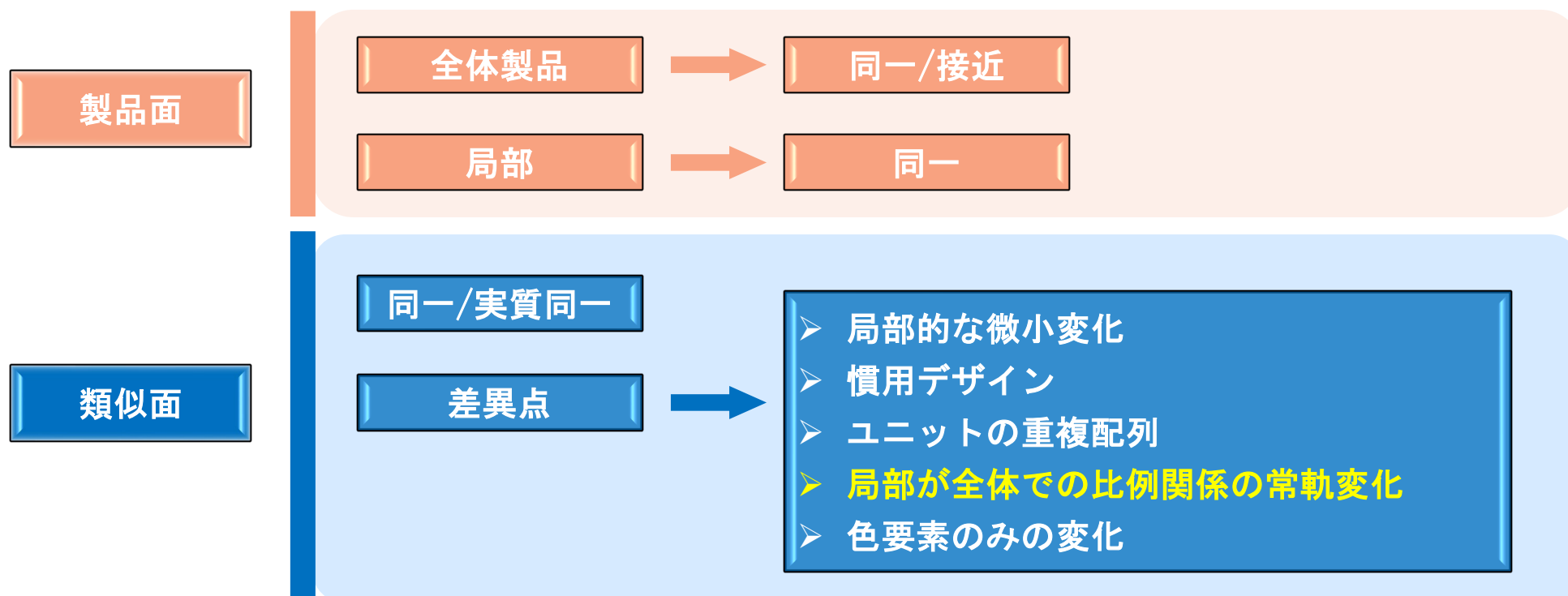
目次



VII. 部分意匠の類似判断(法律上の規定)

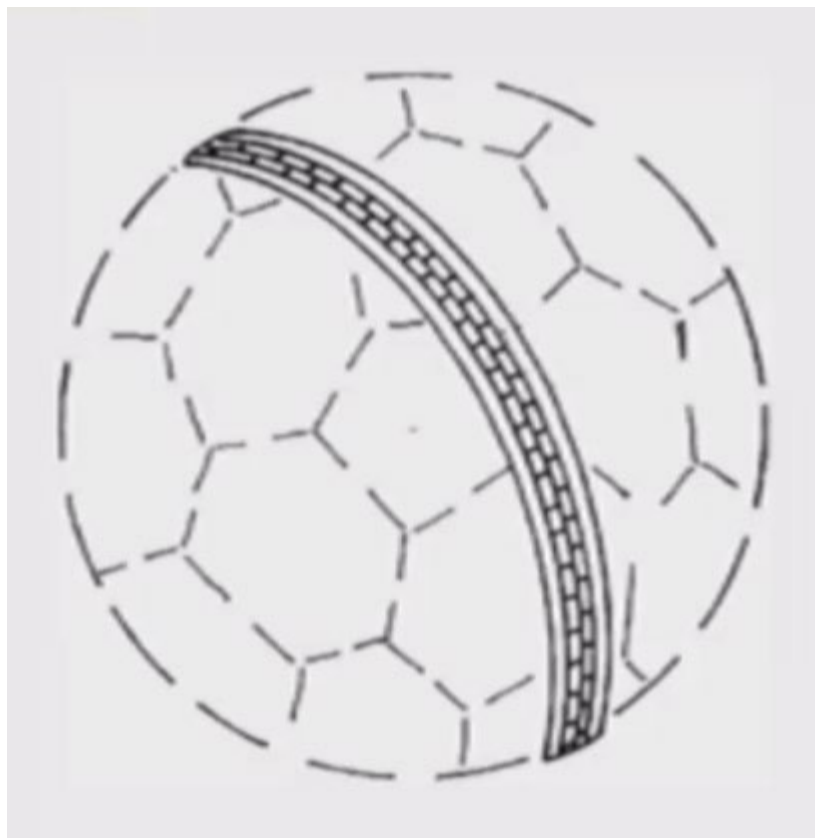
審査指南 第一部分 第三章 8.2

初歩審査において、審査官は意匠出願が明らかに専利法第二十三条第二項の規定を違反したか否かについて審査する。通常、審査官は先行意匠と意匠出願とを単独対比し、意匠出願が明らかに専利法第二十三条第二項の規定を違反したか否かについて審査する。



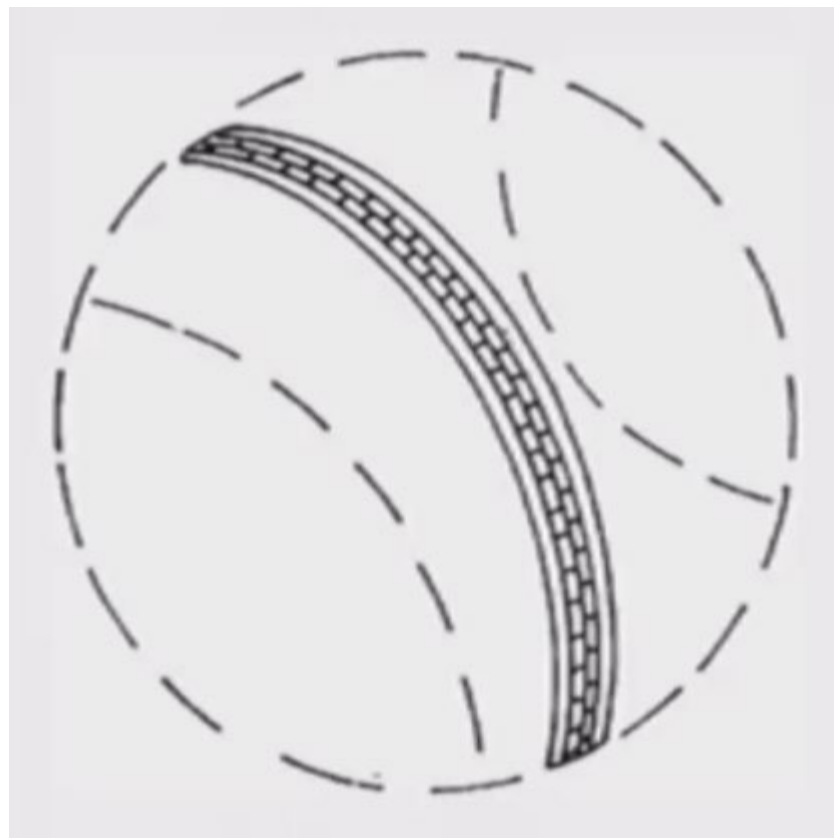
VII. 部分意匠の類似判断(専利法第23条第1項)

先願(or後願)



ボール袋のチャック

後願(or先願)



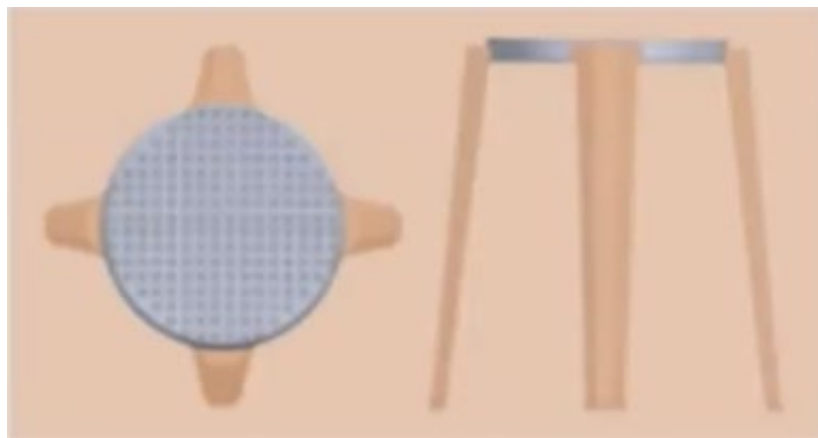
ボール袋のチャック

専利法23.1

製品の種類	→	同一
部分の用途	→	同一
部分の設計	→	同一
位置や比率	→	同一

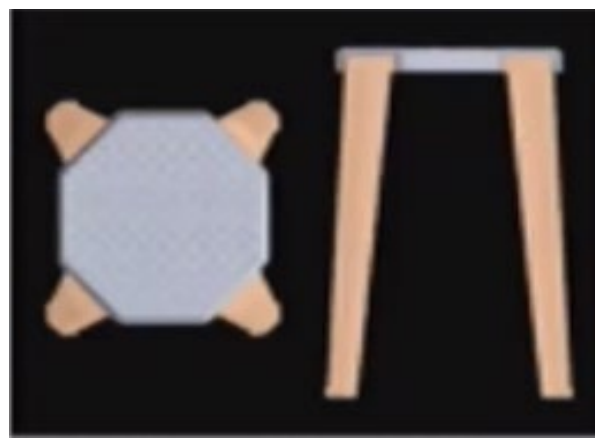
VII. 部分意匠の類似判断(専利法第23条第1項)

先願(or後願)



椅子の座り面

後願(or先願)



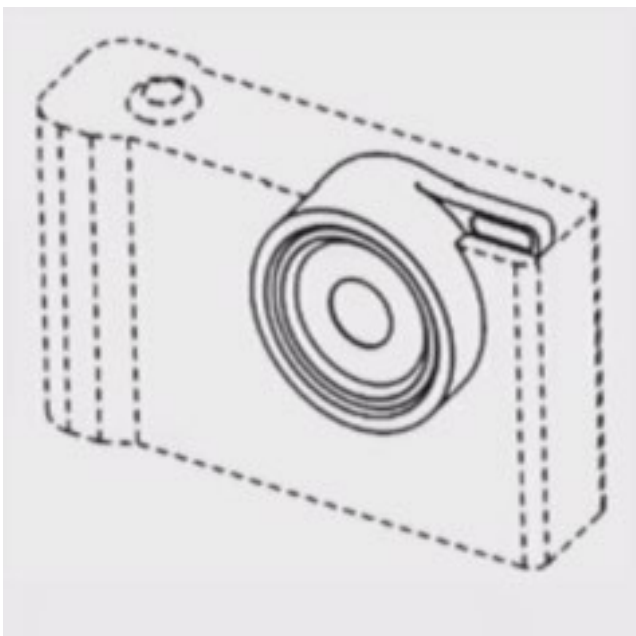
椅子の座り面

専利法23.1

製品の種類	→	同一
部分の用途	→	同一
部分の設計	→	実質的に同一
位置や比率	→	同一

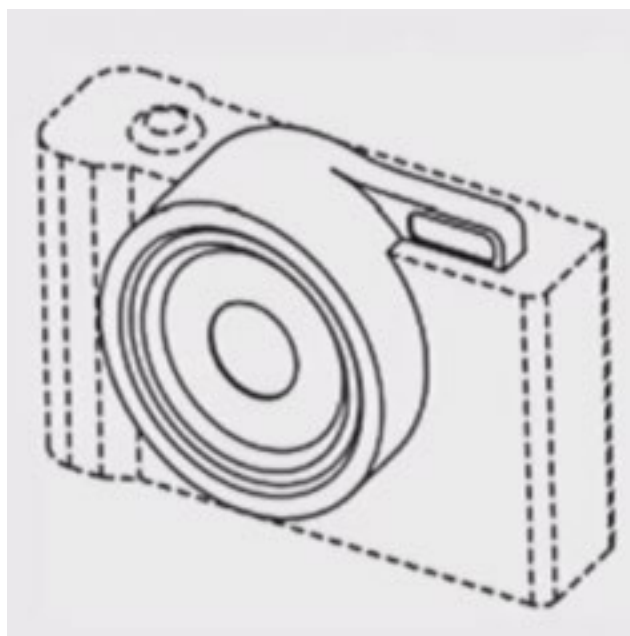
VII. 部分意匠の類似判断(専利法第23条第1項)

先願(or後願)



カメラのレンズ

後願(or先願)



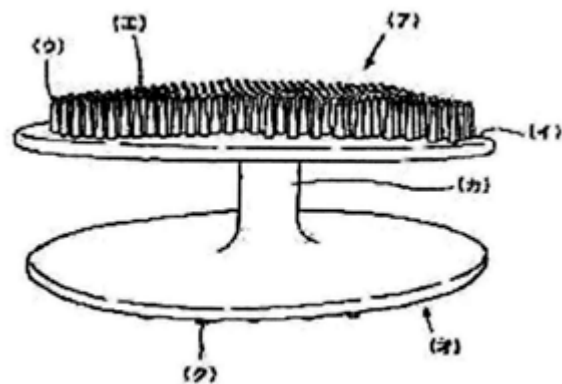
カメラのレンズ

専利法23.1

製品の種類	→	同一
部分の用途	→	同一
部分の設計	→	同一
位置や比率	→	常軌

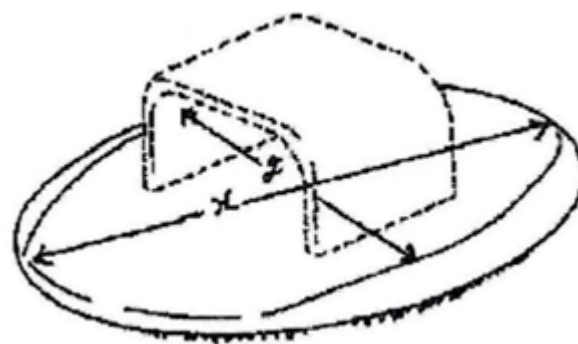
VII. 部分意匠の類似判断(専利法第23条第2項)

先行設計



ブラシの手持ち

後 願



ブラシの盤部

専利法23.2

製品の種類	→	同一
部分の用途	→	相違
部分の設計	→	相似
位置や比率	→	相違

VII. 部分意匠の類似判断(専利法第23条第2項)

先願(or後願)



リモコンのボタン

後願(or先願)



リモコンのボタン

専利法23.2

製品の種類	→	同一
部分の用途	→	同一
部分の設計	→	明らかな相違が無い
位置や比率	→	常軌

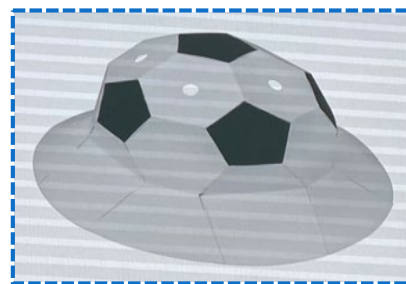
VII. 部分意匠の類似判断(専利法第23条第2項)

先行設計



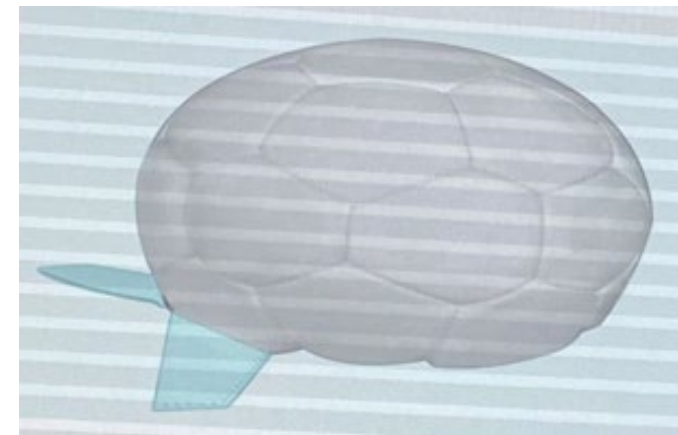
ボール

ボール形の帽子



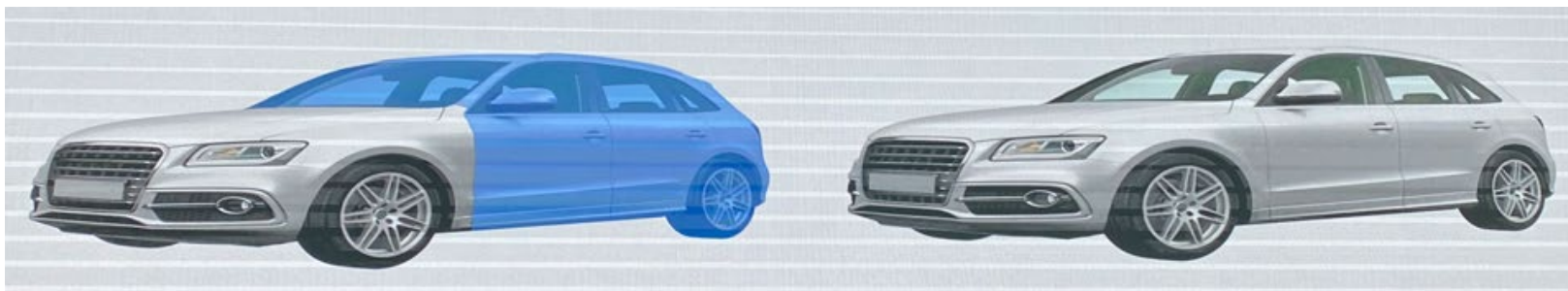
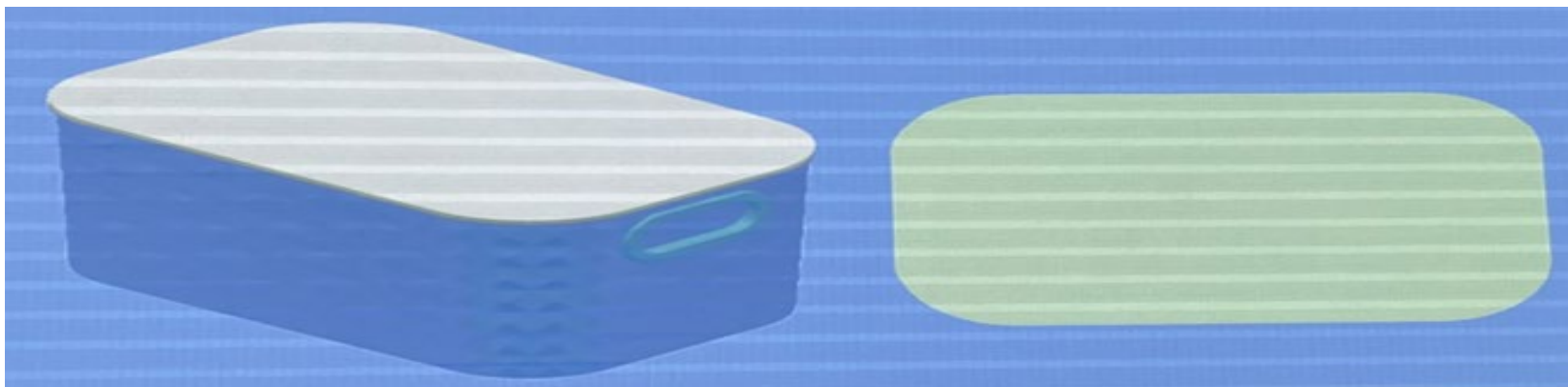
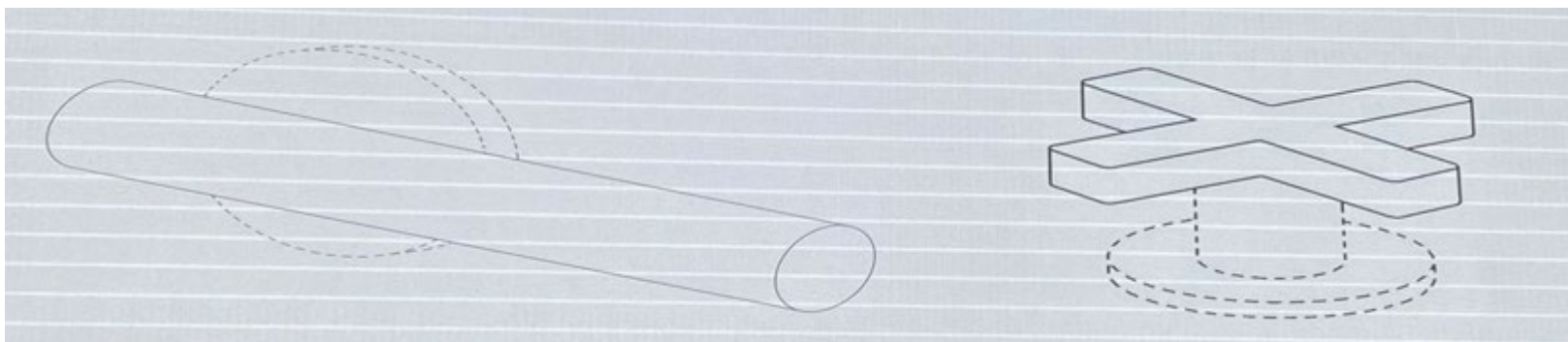
転用の示唆があると見なす

後 願



帽子の本体

VII. 部分意匠の類似判断(専利法第23条第2項)



後
願

先行設計

* 転用の示唆が要らない *

目次

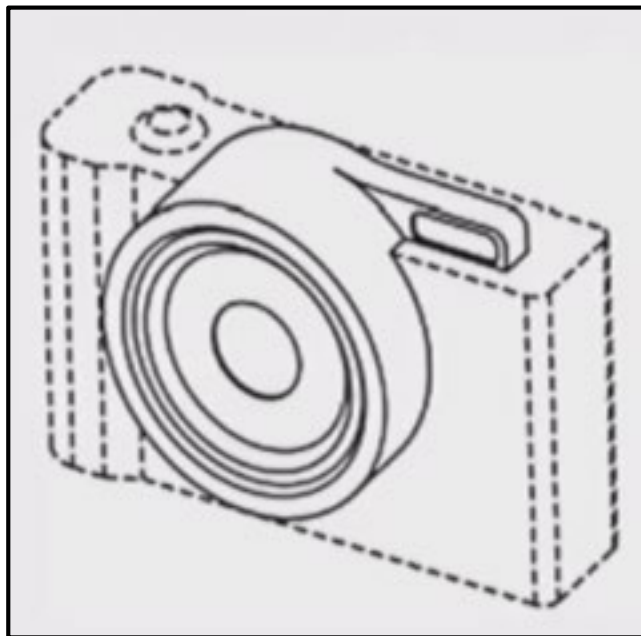


* 部分意匠の無効判断(“製品”に関する判断)

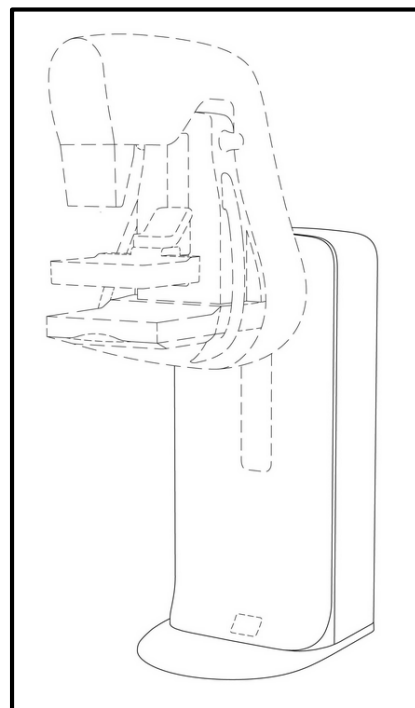
審査指南 第一部分 第三章 4.4.1

部分意匠の名称は、保護しようとする部分とその部分が存在する全体製品を明らかに記載しなければならない。例えば、自動車のドア、携帯電話のカメラ。

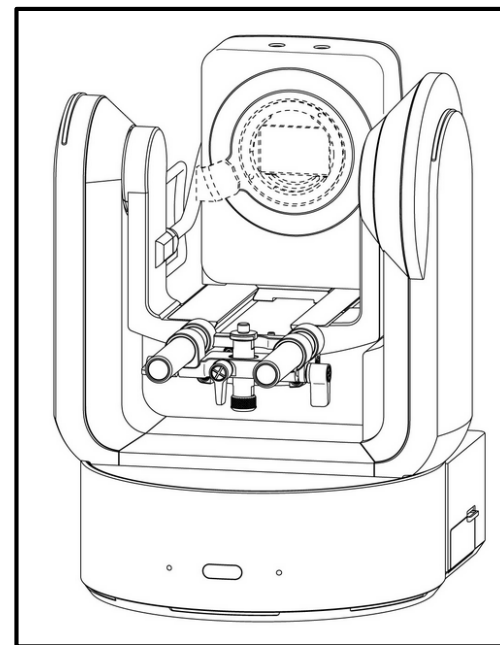
部分意匠における製品とは？



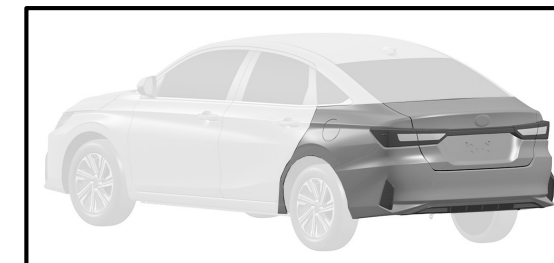
カメラのレンズ



X線装置の支持部



カメラの本体部



自動車の後部

* 部分意匠の無効判断(“用途”に関する判断)

審査指南 第四部分 第五章 5. 1. 1——同一の意匠

部分意匠において、同一種類の製品とは、製品の用途及び該当部分の用途がいずれも同一である製品を指す。

審査指南 第四部分 第五章 5. 1. 2——実質同一の意匠

* 全体意匠時から(1)～(5)を省略 *

(6)その区別が部分意匠の保護しようとする部分が製品全体での位置及び/又は比率関係の常軌変化である(場合には実質的に同一となる)。

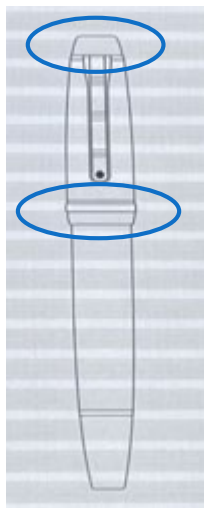
* 部分意匠の無効判断(“組合”に関する判断)

審査指南 第四部分 第五章の6

組み合わせに用いられる従来設計特徴は、物理的に又は視覚的に自然分離可能な設計でなければならず、相対的に独立した視覚効果を有し、勝手に区画した点、線、面は組み合わせに用いられる従来設計特徴には属しない。但し、部分意匠においては、従来設計での対応部分が組み合わせに用いられる従来設計特徴と見なす。

* 部分意匠の無効判断(“組合”に関する判断)

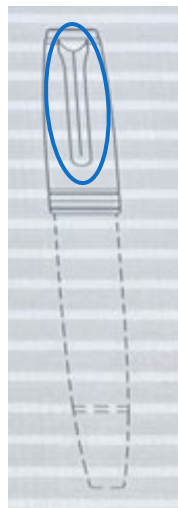
先願1



ペン



先願2



ペンの蓋

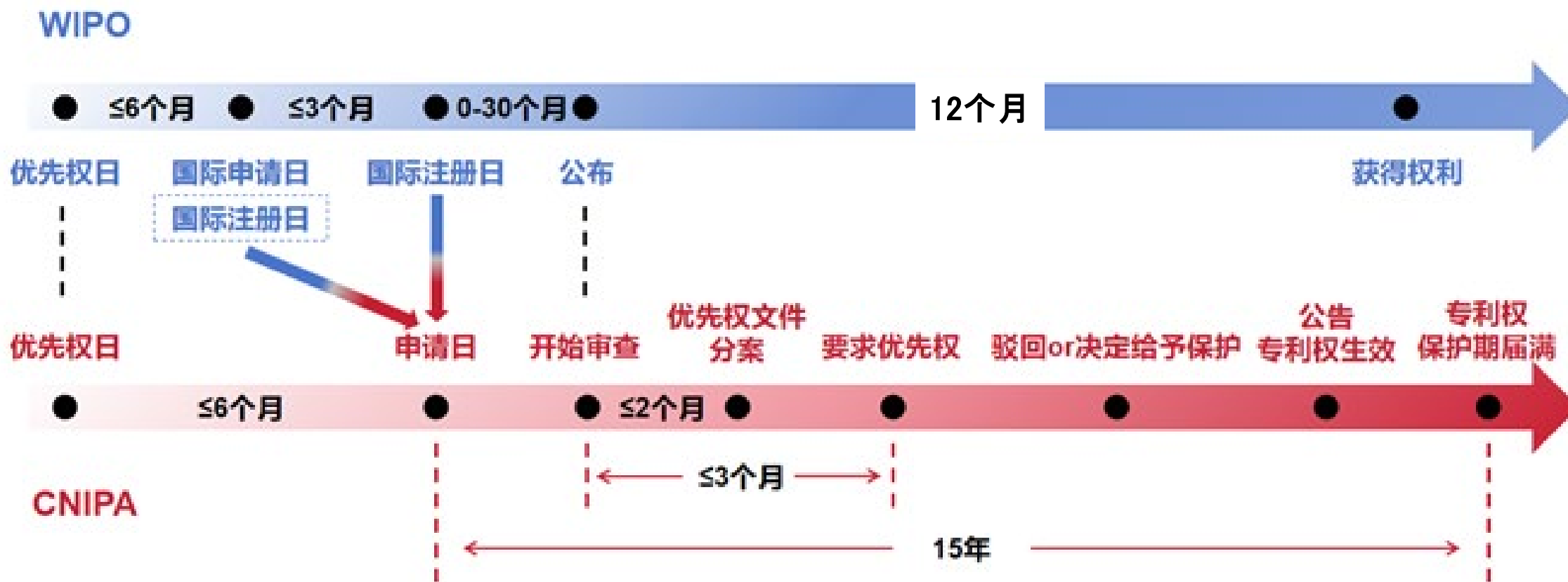


後願



ペンの蓋

* ハーグ協定の時間軸



出所: https://mp.weixin.qq.com/s/t3OjxUT5U07UAF3_v7UDag

An abstract graphic on the left side of the page, composed of various blue geometric shapes like rectangles, circles, and lines, some overlapping and some with a 3D effect, creating a dynamic, layered composition.

ご清聴、有り難うございました。

北京银龙知识产权代理有限公司
地址:北京市海淀区西直门北大街32号院
枫蓝国际中心2号写字楼10层 邮编:100082
Telephone: 86-10-82252547 Facsimile: 86-10-82250563
E-mail: info@dragonip.com; jinchengzhe@dragonip.com
Website: www.dragonip.com

東京銀龍
Add.: 〒105-0001日本国東京都東京都港区虎ノ門 1-14-1
郵政福祉琴平ビル 7F
Telephone: 0081-3-55107878 Facsimile: 0081-3-55107879
E-mail: jpdepartment@dragonip.com Website: www.dragonip.co.jp